

第2期京田辺市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に係る パブリックコメント結果

- (1) 案件名 第2期京田辺市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に係るパブリックコメント
- (2) 募集期間 令和2年1月10日（金）から令和2年2月10日（月）まで
- (3) 意見提出者 5名
- (4) 意見の数 5件
- (5) 意見への対応内訳

| 対応区分 | 件数 |
|----------------------|----|
| 計画に追加又は修正するもの（追加・修正） | 0件 |
| 計画に趣旨を記載済みのもの（趣旨記載） | 1件 |
| 計画の実施段階で参考とするもの（参考） | 2件 |
| その他 | 2件 |
| 合計 | 5件 |

| 整理番号 | 関連箇所 | ご意見の概要 | 対応 | ご意見に対する考え方 |
|------|----------------|---|-----|---|
| 1 | 人口ビジョン:人口の将来展望 | <p>将来の人口減少を最小限にとどめ、活力のあるまちづくりを進めるために、ソフト面の施策と同時に住みたい住宅地等のハード面も推し進めることによって、両輪がうまくかみ合い人口を維持できるのではないか。</p> <p>ついては、利用価値の高いＪＲ大住駅北側の土地について、住宅地開発することを今から視野に入れながら進めていくことが大切ではないか。同志社山手と松井山手における大規模開発完了後の次の一歩であり、付随して、大住小学校の児童も増えるのではないか。</p> | その他 | <p>全国的に人口減少が進むなかにおいて、本市では、コンパクトシティを推進しており、個別計画である立地適正化計画においては、都市計画法上の市街化区域（一部を除く）を、居住誘導区域と都市機能誘導区域に定め、居住誘導区域においては、区域内の人口密度を維持していくことを目標にしています。</p> <p>ご指摘のエリアは現在、都市計画法上の市街化調整区域となっておりますが、上記の理由から、市内において新たな住宅地開発を誘導することを目的に、市街化区域を拡大することは、考えておりません。</p> |
| 2 | 総合戦略:全般 | <p>4つの基本目標を掲げ全方向的にレベルアップを図る総合戦略ではあるが、それゆえ京田辺としての特徴が見えない。総合戦略をベースに、京都・大阪・奈良の中央、近畿の中央にある京田辺の特長を一つの大きな戦略目標とすることで京田辺独自の力強いアピール力のある戦略となるのではないか。</p> <p>一つの大きな戦略目標を掲げることにより総合戦略が明確でわかりやすく受け入れられやすくなり、具体的な施策・戦術に落とし込みやすく、また目標達成もより確固たるものになる。</p> <p>市民を巻き込んで、独自性のある一つの目標・ビ</p> | 参考 | <p>基本目標については、国の策定方針に基づき国や府の目標も勘案するなかで、4つの基本目標にまとめたものです。また、各基本目標に紐付く、具体的な施策の内容は、第4次総合計画まちづくりプランに掲げる施策のなかから、とりわけ出生率低下の克服と地域経済の活性化に資する取組みを選定し組み合わせたものです。</p> <p>ご指摘の本市の特徴である利便性につきましては、総合戦略 p 4 5 の具体的な施策「(1) 個性と魅力あふれる地域づくりの推進」の文中で、「魅力的な都市環境を備えた利便性の高い快適なまちづくりを一</p> |

| 整理番号 | 関連箇所 | ご意見の概要 | 対応 | ご意見に対する考え方 |
|------|------------------------------------|---|----|--|
| | | ジョン（例えば「一休（ひとやすみ）」をキーワードとして使用する）を策定し、市で統一的に使用し、その下で具体的な取組みをされてはどうか。 | | <p>層進める」としており、今後も高い交通利便性を生かしたまちづくりを進めてまいります。</p> <p>なお、本戦略とは別に、「市勢要覧」等では、市民公募による「便利でええやん！」をキャッチコピーにシティプロモーションを展開するとともに、観光施策では、「ひとやすみ」できるまちを目指した取組みを進めており、提案いただきましたことについて、今後の取組みにおいて、参考にさせていただきます。</p> |
| 3 | 総合戦略：基本目標3 京田辺へ新たな人の流れをつくるまちづくり | <p>観光入込客数について、2018年310千人を2024年800千人へと伸び率258%の目標値を掲げてあり、温浴施設の立地により増加する見通しだが、本来の観光目的入込客が第1期と代わり映えしない施策では増えないのではないか。</p> <p>特に文化・歴史を目的とする観光客が少ないと考えられ、市が掲げる文化田園都市に相応しい着地型観光の誘客施策をプラン策定されたい。</p> <p>その一助として、市民目線で考案した観光客増加施策を次の通り提案する。</p> <p>①一休寺の参道と山手幹線の交差点付近にバス駐車場を備えた「道の駅」的な施設づくり</p> <p>②甘南備山と市内パワースポットをまとめたウォーキングコースを設定し市外から誘客</p> | 参考 | <p>観光振興につきましては、総合戦略（案）p 43の具体的施策「（1）歴史・文化など地域資源を生かした観光の振興」の主な内容として、観光振興拠点の環境整備や機能強化をはじめ、歴史遺産や伝統行事を生かした広域観光ネットワークの形成、参加・体験型観光の充実など、観光入込客数の増加につながる施策に取り組むこととしています。</p> <p>またp 44の具体的施策「（3）交流・地域連携」の主な内容として、同志社大学等との連携協力の強化等に取り組むこととしています。</p> <p>提案いただきましたことについて、今後、事業を進めるにあたって参考とさせていただきます。</p> |

| 整理番号 | 関連箇所 | ご意見の概要 | 対応 | ご意見に対する考え方 |
|------|---|---|----|--|
| | | <p>③京田辺の歴史・遺跡と出土品等を集めた歴史資料館を造り歴史あるまちを広くPR</p> <p>④同志社の協力を得て、京田辺キャンバスのスポーツ施設見学ツアーを企画し実行</p> <p>⑤参加・体験型観光のアイデアを、市民、団体、事業者から募集し、可能なものを実行</p> | | |
| 4 | 総合戦略：基本目標4 持続可能で個性と魅力にあふれ、安心して暮らせるまちづくり | <p>基本目標4に記載の「具体的施策」(1)個性と魅力あふれる地域づくりの推進(2)まちへの誇りと愛着を育む取り組み(3)安全・安心な地域づくりの各内容の具体的なアクションプラン作成と推進体制の確立が肝要と考える。また、それら具体的な施策を着実に実行することが持続可能で安心して暮らせるまちへの道となる。</p> <p>なお、第三者（大学、鉄道、バス、医療関係等）との連携を必要とする事業や北陸新幹線新駅設置など長期にわたる課題については各種ケーススタディーを含む事前の取り組みスタンスと将来展望の明確化を期待したい。</p> <p>ただし、人口ビジョンに見る将来人口の展望によると2030年の約78,000人をピークに減少に転じるため、将来にわたって安心して暮らせるまちを維持する為にはこのまちの交通利便性（鉄道、道路）及び</p> | 参考 | <p>総合戦略における各施策の内容については、地方創生推進交付金など国の財政的支援や、事業者との連携を図るためにも、幅広く取組みを記載しているところであります。今後、各事業を進めていくにあたり、事前に個別の計画等において、方向性を明確化し、取組みを具体化してまいりたいと考えております。</p> <p>後段の1～4の取組みに関しましては、市の大きな方向性としまして、総合戦略p42の具体的施策「(2)事業活動を行いやすい環境整備」の主な内容として、工業系土地区画整理事業の促進など、企業立地に取り組むこととしており、また、p43の具体的な施策「(1)個性と魅力あふれる地域づくりの推進」の主な内容として、利便性の高いコンパクトシティの形成などを推進していくこととしています。</p> <p>提案いただきましたことについて、今後、事業を進めるにあたって参考とさせていただきます。</p> |

| 整理番号 | 関連箇所 | ご意見の概要 | 対応 | ご意見に対する考え方 |
|------|--|---|-----|---|
| | | <p>住環境の最適立地などを活かして人口増加のピークアウトの先延ばしを図ると共に少子高齢化と税収の確保に備える以下の取り組みの実現を期待したい。</p> <p>1 AI 関連及び雇用と職住接近に資する会社の誘致及び工業団地の拡大</p> <p>2 田辺地区の新市街地整備及び新田辺駅東側市街地の再整備構想の実現</p> <p>3 北陸新幹線松井山手新駅設置に伴う市北部地域の再開発</p> <p>4 京田辺市全域（北部/中部/南部）に亘るコンパクトシティ化構想の検討</p> <p>上記の諸施策の実現の暁（2045～2050年）には人口100,000人規模の魅力と活気あふれる京田辺市が誕生するのも夢ではない。</p> | | |
| 5 | 総合戦略：基本目標4 持続可能で個性と魅力にあふれ、安心して暮らせるまちづくり | 究極の「鉄道輸送力の増強」策としてリニア中央新幹線の新駅と北陸新幹線の新駅を併合して「松井山手」に誘致することを提案する。 | その他 | <p>リニア中央新幹線につきましては、全国新幹線鉄道整備法に基づき、平成23年5月に国が決定した中央新幹線の建設に関する整備計画において、主要な経過地として「奈良市附近」と示されています。</p> <p>日本の大動脈となるリニア中央新幹線の整備により、大きく人の流れが変わる可能性があり、本市としても、今後の動向に注視してまいります。</p> |

問い合わせ先 企画調整室

電 話 0774-64-1310

E メール kikaku@city.kyotanabe.lg.jp